

この春の気象の分析と今後の気象について

(株) ウェザーマップ
気象予報士 江花 純



価格情報委員会

2010/7/8

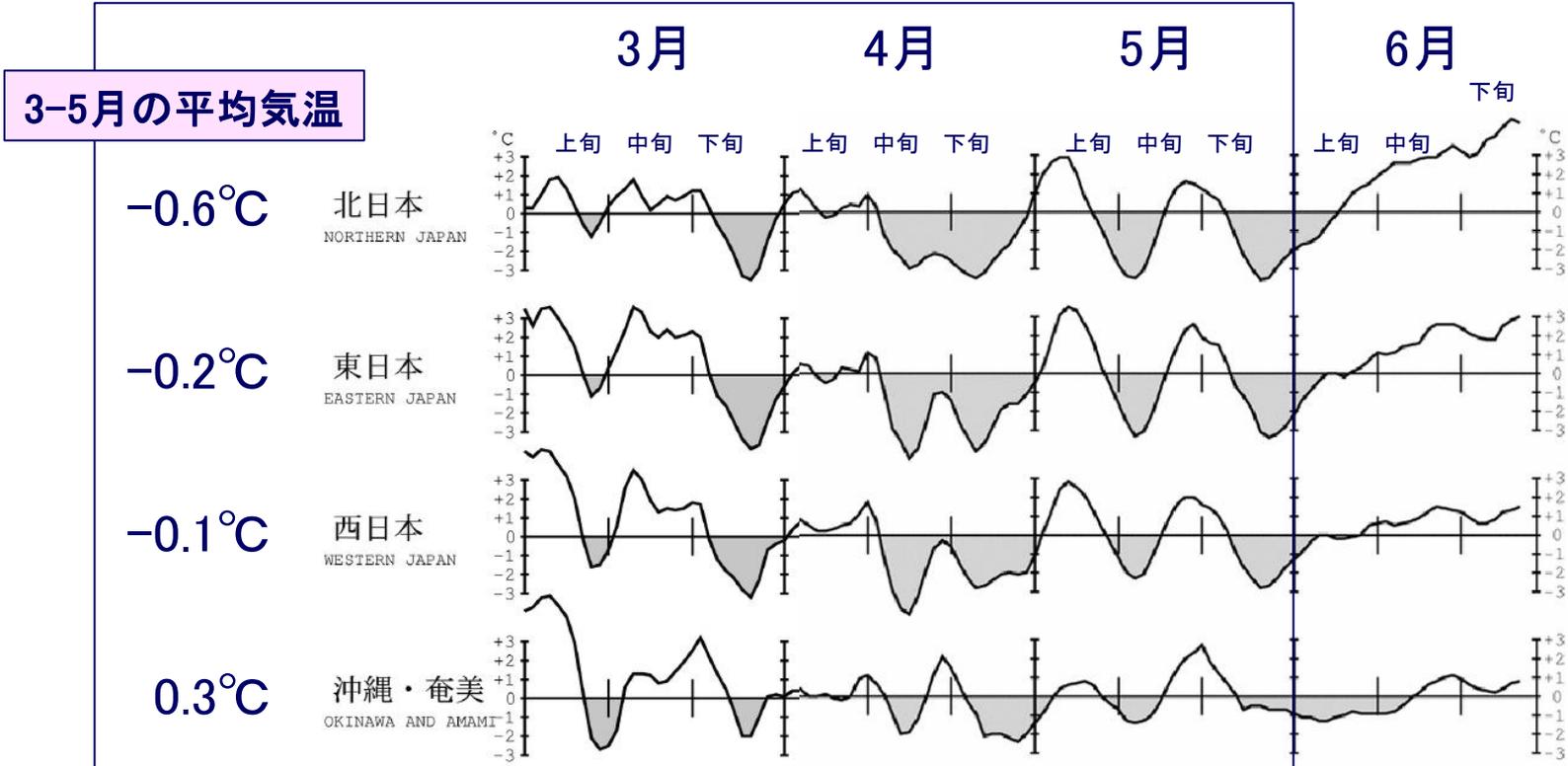
この春の気象の分析と今後の気象について



今年の春（3～5月）の気温

●全国的に気温の変動が大きかった。

暖かい空気が流れ込み高温となった時期と、寒気が流れ込み低温となった時期があり、全国的に気温の変動が大きかった。春の平均気温は、北日本で低く、東・西日本で平年並、沖縄・奄美で高かった。



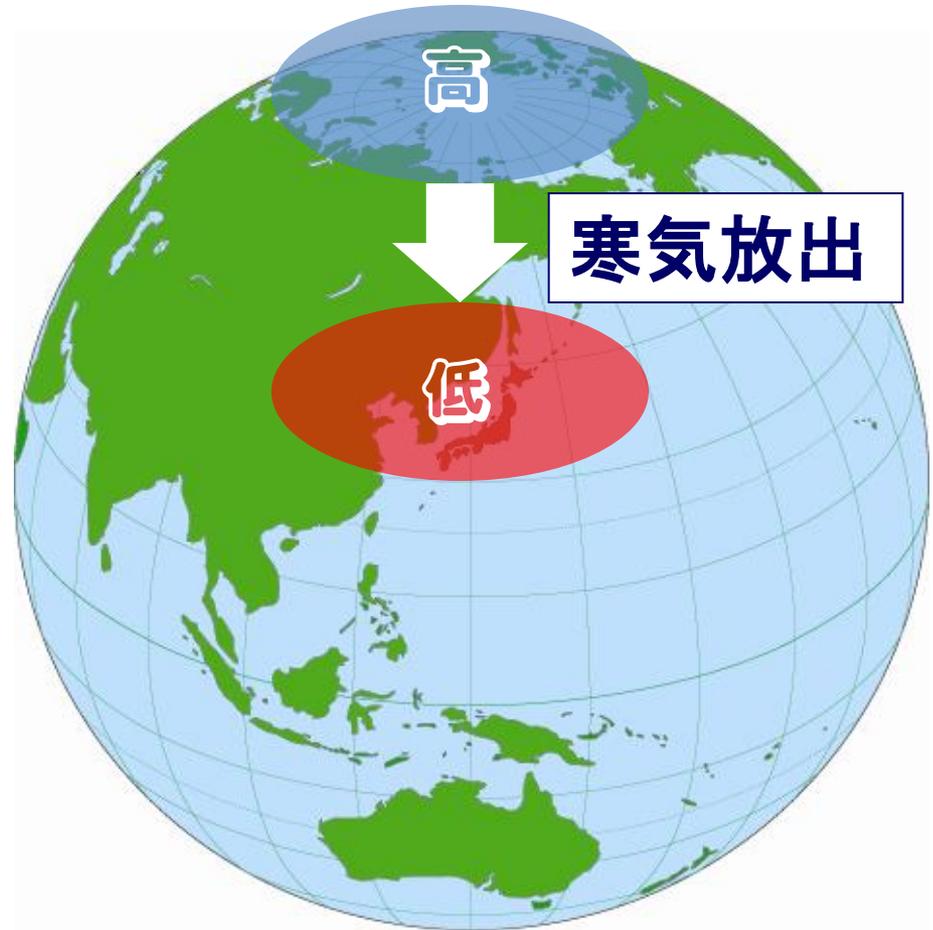


北極振動(AO)

北極圏の寒気の蓄積・放出に関与。

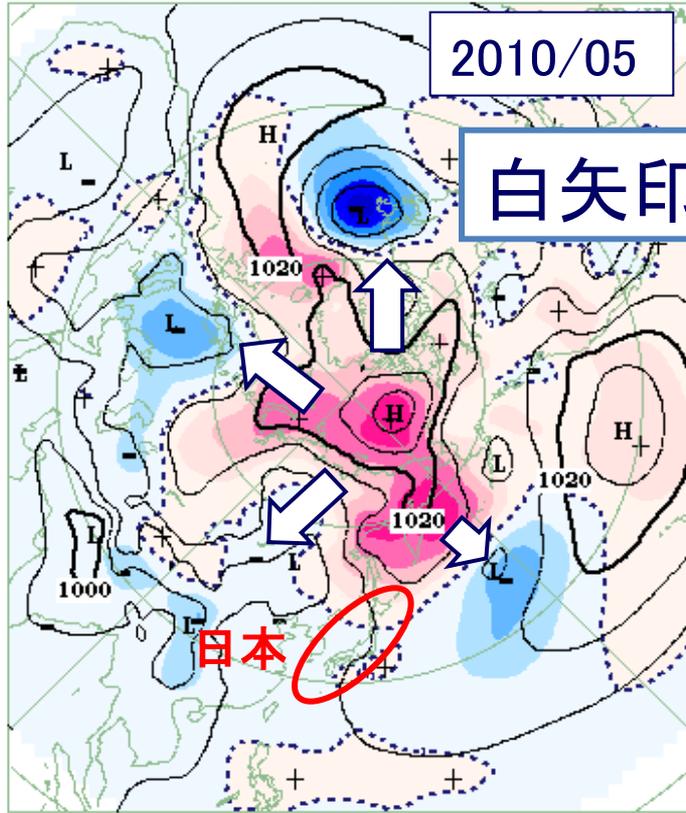
北極圏と日本などの中緯度地帯の気圧が相関して、変動する現象。

- 大気の流れは「高気圧」→「低気圧」
- 北極圏が「高」、中緯度が「低」
→ 寒気の放出期
- 北極圏が「低」、中緯度が「高」
→ 寒気の蓄積期

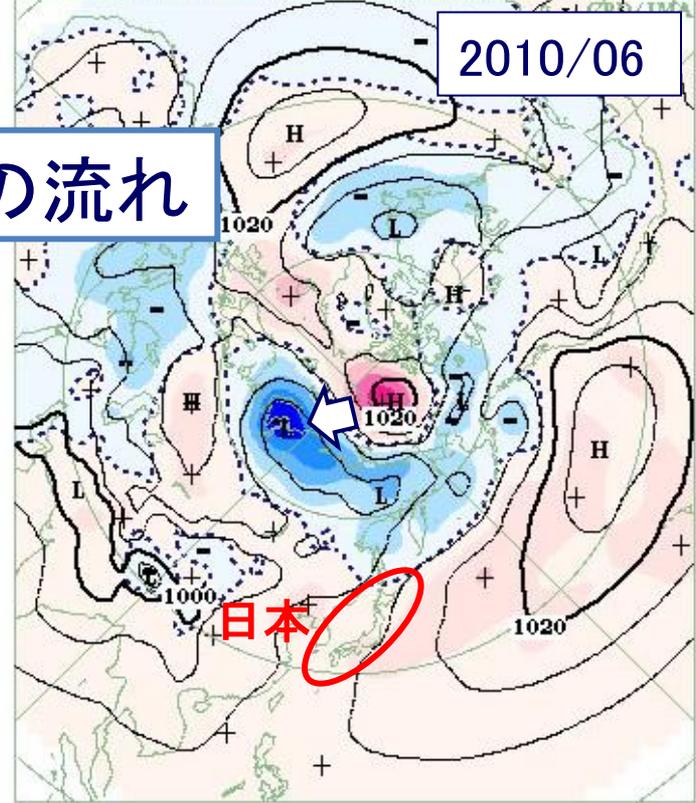
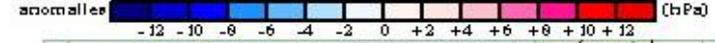




北極振動



白矢印は寒気の流れ



北半球月平均海面気圧および平年偏差

等値線は海面気圧を表し、間隔は4hPa。陰影域は平年偏差を表す。

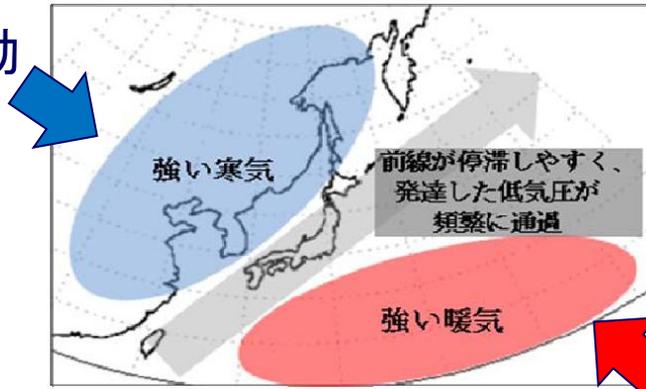


今年春（3～5月）の降水量、日照時間

- 北日本から西日本にかけては、降水量がかなり多く、日照時間がかなり少なかった。

本州付近を低気圧や前線が頻繁に通過したため、春の合計降水量は、北日本から西日本にかけてかなり多かった。また、春の合計日照時間は、北日本と東・西日本の日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側で少なかった。地域平均の統計を開始した1946年以降で、西日本太平洋側では最も降水量が多く、北日本と東日本の日本海側では最も日照時間が少なかった。

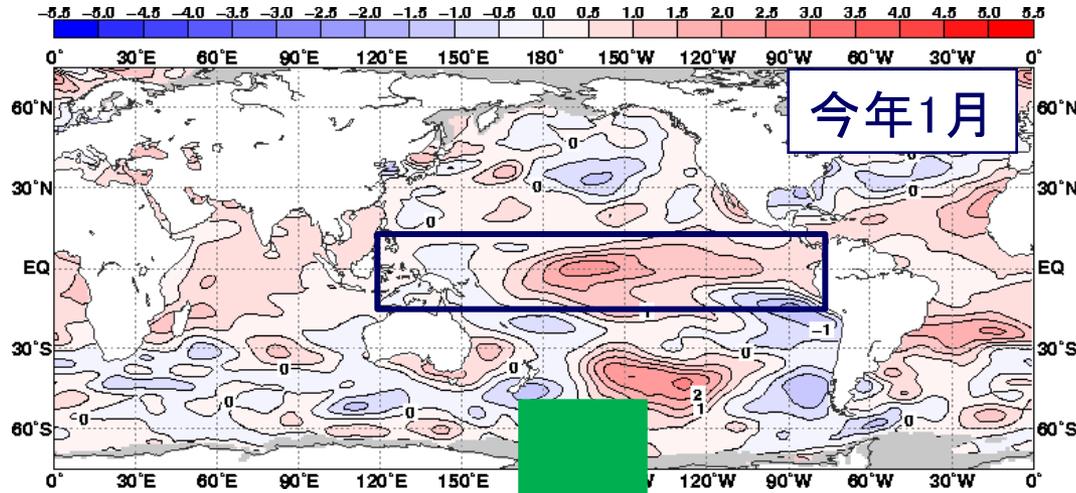
負の北極振動



エルニーニョ



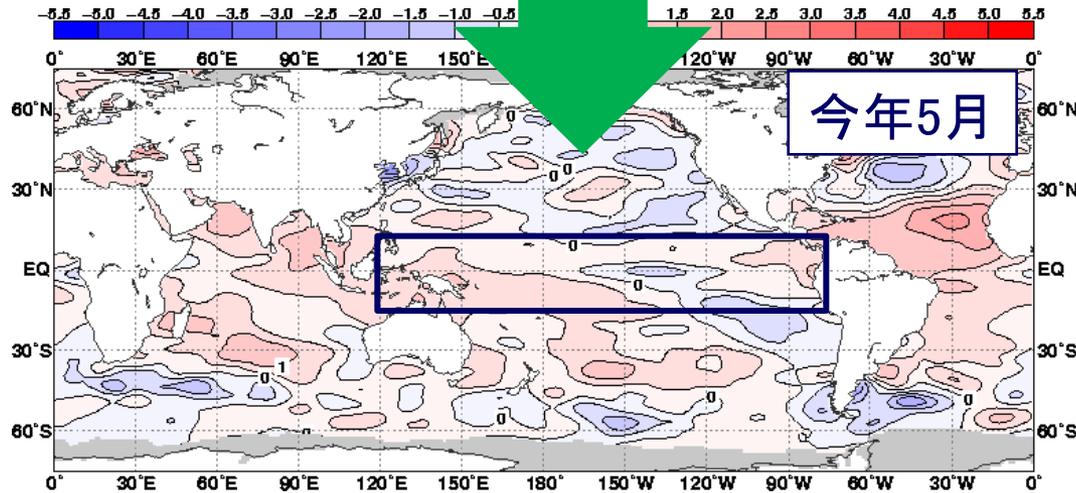
エルニーニョ終息



今年1月

月平均海面水温 平年偏差図

等値線は海面水温の平年偏差を表し、間隔は0.5°C。灰色ハッチは海水域を表す。



今年5月

東部太平洋赤道域の海水温は下降し、西部の海水温が相対的に上昇。エルニーニョは終息に向かう。



今夏の気温予測

2月～5月時点での夏(6～8月)の予測→北日本**冷夏**傾向

ところが…

6/24新聞タイトル

今年の**残暑は厳しい**…気象庁が3か月予報(読売)

3か月予報:「**蒸し暑い夏**」予報(毎日)

今年の**残暑は厳しそう** 気象庁が3か月予報(朝日)

「**冷夏**」一転「**暑い夏**」オホーツク海高気圧弱く 道内3か月予報(北海道新聞)

北日本の夏、平年より暑く=「**冷夏**」を修正—気象庁3か月予報(時事通信)

6月時点での夏(7～8月)の予測→北日本、**並～暑夏**傾向？



気象庁発表3か月予報

●7月の予報が並～高温側にシフト

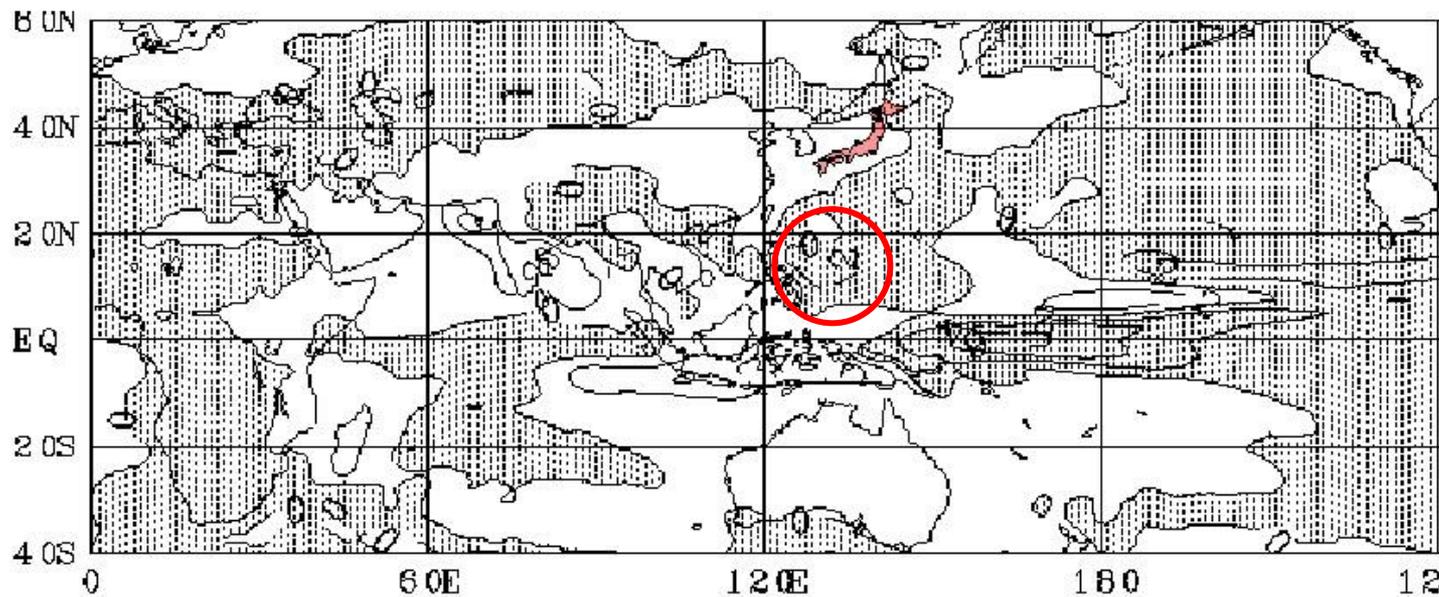
気温 5/25発表	3か月(%)	6月	7月	8月
	低 並 高	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	40:40:20	40:30:30	50:30:20	40:40:20
東日本	30:30:40	30:40:30	40:30:30	30:30:40
西日本	30:30:40	30:40:30	40:30:30	20:40:40
沖縄・奄美	20:30:50	30:40:30	10:30:60	10:30:60

気温 6/24発表	3か月(%)	7月	8月	9月
	低 並 高	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	20:40:40	20:40:40	40:40:20	20:30:50
東日本	20:30:50	20:40:40	30:30:40	20:30:50
西日本	20:30:50	20:40:40	20:40:40	20:30:50
沖縄・奄美	10:30:60	20:30:50	10:30:60	10:30:60

●8月の予報はこれまでとは変化なく 北冷西暑傾向を示唆



フィリピン近海での対流活動



降水量偏差の予想図

2010年7-9月の3か月平均。等値線間隔は2mm/day。

陰影域は平年より降水量が少ない。つまり、対流活動が不活発であると予想される。

台風の発生がまだ1個(7/7現在)

1951年の統計開始以来、6月末までに台風の発生が1個以下だったのは

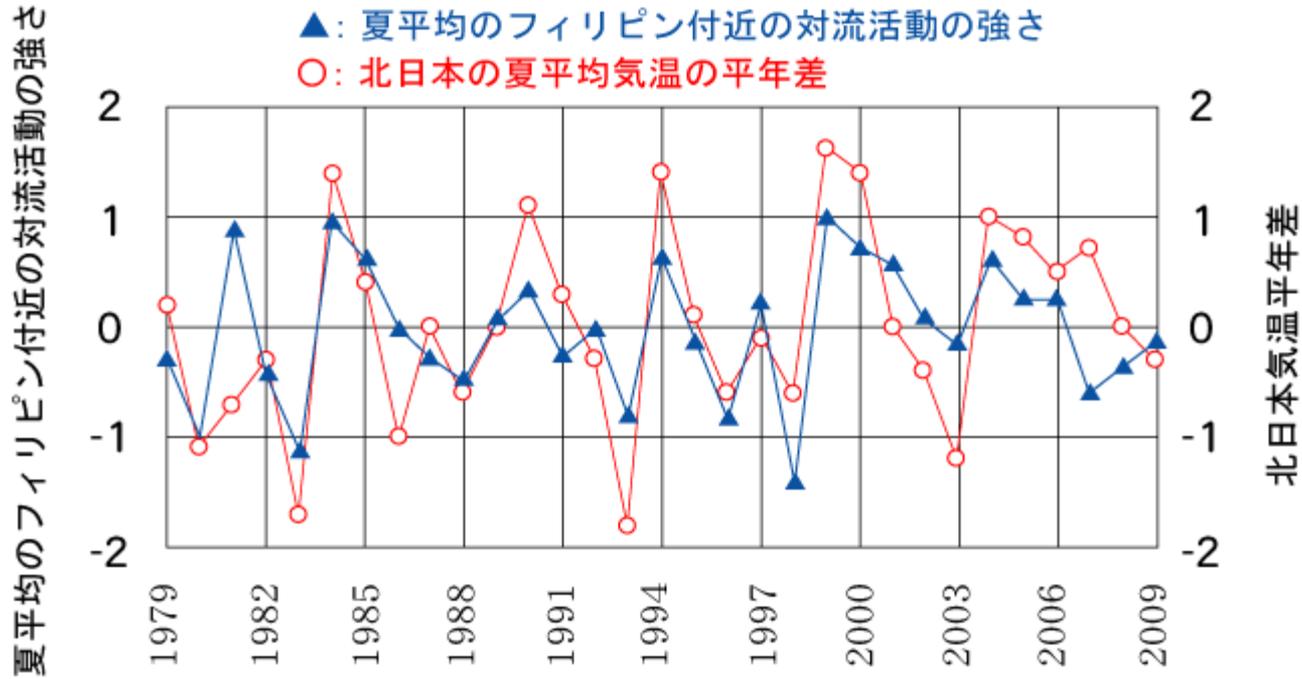
73年(0個)
75年(1個)
83年(1個)
98年(0個)

エルニーニョ現象	ラニーニャ現象
	1949年夏～ 50年夏
1951年春～51/52年冬	
53年春～ 53年秋	54年春～55/56年冬
57年春～ 58年春	
63年夏～63/64年冬	64年春～64/65年冬
65年春～65/66年冬	67年秋～ 68年春
68年秋～69/70年冬	70年春～71/72年冬
72年春～ 73年春	73年夏～ 74年春
	75年春～ 76年春
76年夏～ 77年春	
82年春～ 83年夏	84年夏～ 85年秋
86年秋～87/88年冬	88年春～ 89年春
91年春～ 92年夏	95年夏～95/96年冬
97年春～ 98年春	98年夏～ 2000年春
2002年夏～02/03年冬	2005年秋～ 06年春
	07年春～ 08年春
09年夏～	

エルニーニョ現象終息直後
↓
フィリピン付近の対流が不活発な傾向



フィリピン付近の対流活動と太平洋高気圧



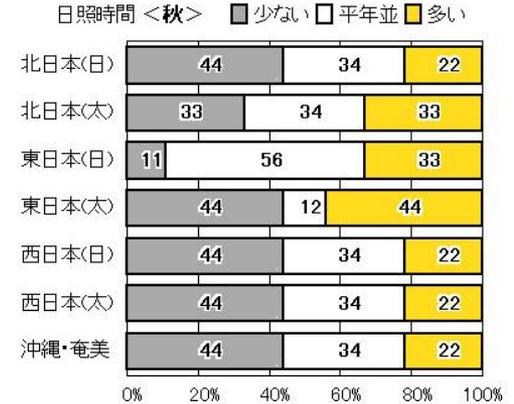
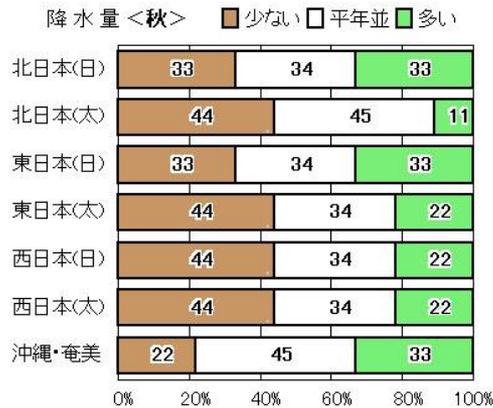
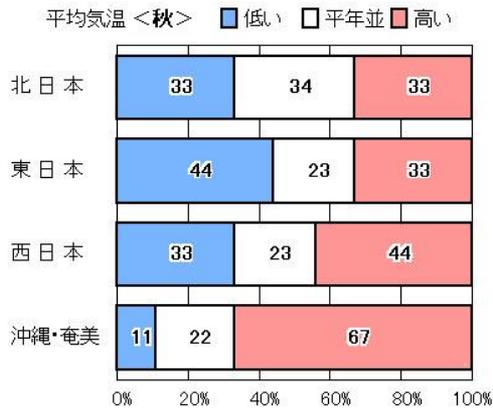
夏平均のフィリピン付近の対流活動の強さと
北日本の気温(1979-2009年)

●フィリピン付近の対流活動が不活発→太平洋高気圧の張り出し弱い



結論

- 8月は北日本を中心に低温の可能性あり
- 秋以降、ラニーニャ現象発生の可能性高く、9月は残暑厳しい。



- 平均気温は、沖縄・奄美で高い傾向。
- 降水量は、北日本の太平洋側、東日本の太平洋側、および西日本で少ない傾向。
- 日照時間は、北日本の日本海側、西日本、および沖縄・奄美で少ない傾向。